

## 2018年5月の金融経済概況のポイント

### ■景気の基調判断

- 5月は、「道北地域の景気は、緩やかに持ち直している」としました。3月にワンランク切下げた後、前月に続き変更なしです。
- 公共投資が災害復旧工事の一巡を主因に減少しているほか、個人消費が依然冴えない動きとなっており、住宅投資も減少しています。
- もっとも、道北地域の景気が持ち直していることには変わりありません。建設関連では、災害復旧という特需こそ一巡しましたが、工事量は引続き多く、人手不足の中で繁忙な状態が続いています。観光も持ち直しています。この先、道北地域の景気全体が下方トレンドに転じて行くということではないとみています。

### ■個人消費の動向

- 4月の大型店売上高は、前年を下回りました。これで8か月連続のマイナスです。土日祝の数は昨年4月と同じでした。これといった特殊要因はなく、これが実勢と考えざるを得ません。ガソリンなどのエネルギー価格の上昇が家計を圧迫し、消費者の財布の紐を締めているとの指摘も聞かれます。
- 4月の新車登録台数も、前年割れでした。こちらは4か月連続のマイナスです。昨年夏までは大きく伸びていたのですが、このところは伸び悩んでいます。除く軽自動車と軽自動車に分けてみますと、除く軽自動車は前年比▲7.8%と比較的大きなマイナスでしたが、軽自動車は3月に12か月ぶりにマイナスになった後、4月は再び前年を上回りました。

## ■観光の動向

- 観光は、比較的良い数字が出ています。
- 4月の道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数は、前年を上回り、12か月連続の増加となりました。旭川空港は、国際線が定期便（台湾便）の就航があったことから、前月に引続き前年比プラスとなりました。国内便は17か月連続で前年を上回っており、全体（国内線＋国際線）でも4か月連続の増加となっています。他の空港は、紋別空港が前年を下回りましたが、女満別空港と稚内空港は前年を上回りました。
- ホテル・旅館宿泊者数は、3か月連続で前年を上回りました。また、旭川市内のホテルの客室稼働率は、7か月連続で前年水準を上回っています。
- 各地観光施設の入込みは、閑散期ではありますが、博物館網走監獄を除き、いずれも前年を上回りました。

## ■公共投資の動向

- 4月の上川、オホーツク、宗谷の3総合振興局における公共工事請負金額は、前年を大幅に下回りました。これで4か月連続の前年割れです。昨年度前半に集中した災害復旧工事の発注が一巡し、発注の減少が鮮明になってきました。
- もっとも、建設業者の手持ち工事量は引続き多く、人手不足の中で繁忙な状態が続いているようです。

## ■住宅着工

- 3月の新設住宅着工戸数は、持家が前年と同数、貸家は6か月ぶりに前年を上回ったものの、分譲住宅と給与住宅が減少したことから、全体でも前年水準を下回りました（4か月連続の減少）。当月は貸家が前年を上回りましたが、現段階ではこれが貸家の回復を示すものとは見ていません。

## ■住宅以外の建築物

- これまで高い伸びを続けてきた建築物着工床面積（非居住用）も、このとこ

る減少気味でしたが、3月は4か月ぶりに前年を上回りました。

## ■雇用

- 雇用状況は、引き締まった状況が続いています。3月の有効求人倍率は、旭川、稚内、北見、網走のいずれにおいても1倍を超えました。新規求人数も4地域すべてで前年を上回りました。道北の企業は、引続き人手不足の中にあります。

## ■今後のポイント

- 以上のとおり、道北地域の景気は、統計数字を見る限りはネガティブ情報を示すデータが多く、何とも冴えない感じがしますが、企業の景況感はずほど悪くなってはいないように窺われます。公共工事の発注が減少している建設業界でも、工事の受注残はまだ多く残っているうえ、新年度予算も災害復旧分が剥落したとはいえ、水準としてはなお高いレベルを維持しているため、足許大きな不安を持っているようには見受けられません。また、3月の日銀短観（道北地域）でも、企業の景況感を示す業況判断DIは+14と引続き良好な状態にあることが確認されました。
- 今後は、①公共工事のボリュームが災害復旧工事といった特需が解消するなかで、建設業者の良好な景況感を持続するのに十分な工事量を維持できるか、②建築物を含めた民間の設備投資動向、③個人消費の動向（大型店および新車販売）、④夏の本格シーズンを迎える観光の動向、に着目していきたいと考えています。

以上